

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病虫害発生予察情報について

令和2年度農作物病虫害発生予報第8号を発表したので送付します。

令和元年度農作物病虫害発生予報第8号

令和2年8月28日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.0%、発病穂率が0.3%と、平年(21.1%、0.5%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.0%、発病度が2.2と、平年(66.6%、6.5)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するよう、株元をねらって散布する。
- (2) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認(収穫14日前までの剤が多い)し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する。

トビイロウンカ (8月13日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が88.0%, 株当たり寄生虫数が1.05頭と, 平年(12.3%, 0.08頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場における発生状況を早期に確認し, 1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う。
- (2) 本虫は株元に生息しているので, 薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合であっても, 降雨の合間に薬剤防除を行う。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が84.0%, 上位2葉の被害葉率が2.4%と, 平年(23.3%, 0.9%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が3.7%, 発病果率が0.0%)。
- (2) 7月第6半旬に行った新梢における発病調査でも, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.0%)。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

8月における勝浦町では, 各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している。上板町では, ツヤアオカメムシおよびチャバネアオカメムシは, 概ね平年並に推移しているものの, クサギカメムシは, 平年に比べて少なく推移している(表1)。

- (2) 8月第6半旬のカキにおける巡回調査では, 被害果を認めていない(平年同時期では, 発生圃場率が10.3%, 被害果率が0.2%)。

表1 [勝浦町および上板町における各カメムシの誘殺数]

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ			3種合計		
			2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年
勝浦	8月	1半旬	6	79	192	12	86	91.4	2	4	23.6	20	169	307
		2半旬	8	57	190.5	33	116	121.5	0	13	25.7	41	186	337.7
		3半旬	16	-	383.8	53	-	107.9	9	-	30.5	78	-	522.2
		4半旬	22	79	197.1	66	183	177	6	9	37.2	94	271	411.3
		5半旬	24	19	131.6	45	117	200.9	5	3	29	74	139	361.5
		6半旬		41	111.7		96	255.7		1	26.8		138	394.2
上板	8月	1半旬	1	4	9.2	27	4	22.4	0	0	15.6	28	8	47.2
		2半旬	14	1	11.1	36	4	16.3	3	1	19.3	53	6	46.7
		3半旬	10	2	21.4	26	15	33.8	1	5	23.1	37	22	78.3
		4半旬	12	4	18.5	9	17	32	2	5	21.5	23	26	72
		5半旬	20	6	18.3	25	24	40.1	2	2	16.2	47	32	74.6
		6半旬		8	24.3		17	47.4		2	8.6		27	80.3

(3)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が58.2%、発病葉率が7.8%)。
- (2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生葉率が0.3%と、平年(63.8%、3.1%)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が5.7%と、平年(41.9%、2.2%)並の発生である。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(46.3%)並の発生であるが、50株当たり虫数は0.3頭と、平年(2.9頭)に比べてやや少ない。
- (2) フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において、6月2半旬～7月5半旬にかけ、平年より多く誘殺されていたが、以降、概ね平年並に推移している(図1)。
- (3) 高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず、確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

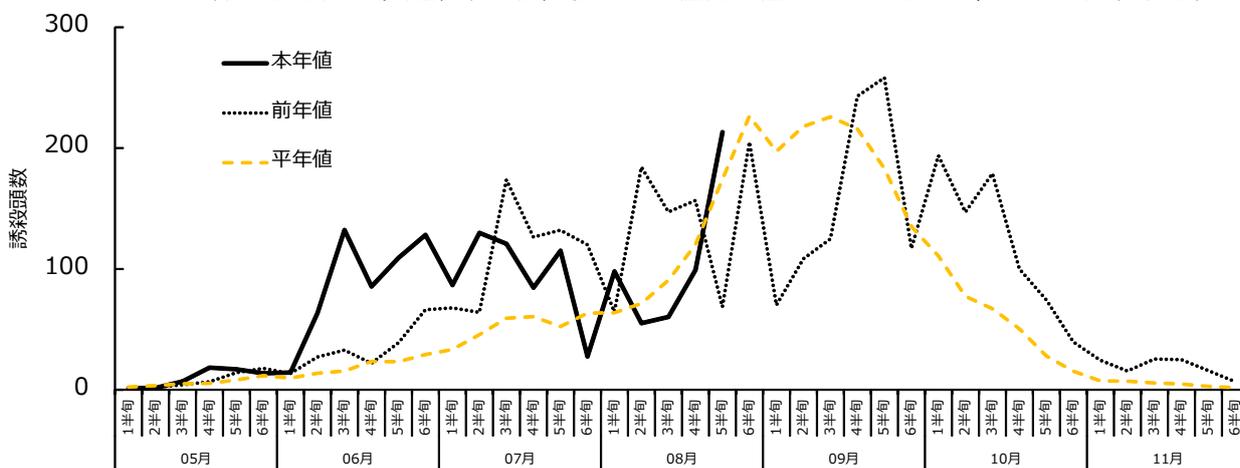


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数推移(野菜圃場6地点)

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、被害度が1.3と、平年(42.0%、1.6)並の発生である。

(2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)8月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.3と、平年(91.9%, 13.6)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ(7月17日付けで注意報発令中)

1)予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年並)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)フェロモントラップへの誘殺虫数(調査9圃場の平均)は、6月4半旬~7月3半旬にかけ、平年より多く誘殺されていたが、以降、概ね平年並に推移している(図2)。

(2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

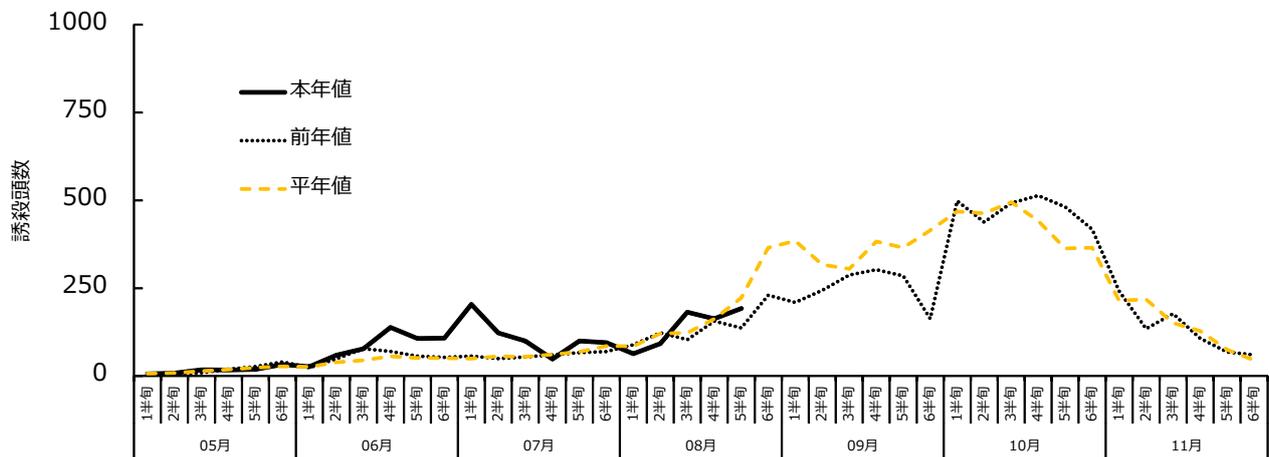


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移(野菜圃場9地点)

シロイチモジヨトウ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において、6月2半旬~7月5半旬にかけ、平年より多く誘殺されていたが、以降、概ね平年並に推移している(図1)。

(2)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

オオタバコガ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)フェロモントラップ定点調査(野菜圃場7地点)において、4月3半旬～6月4半旬にかけ、平年並の誘殺であったが、以降、平年に比べて少なく推移している(図3)。

(3)高松地方気象台が8月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

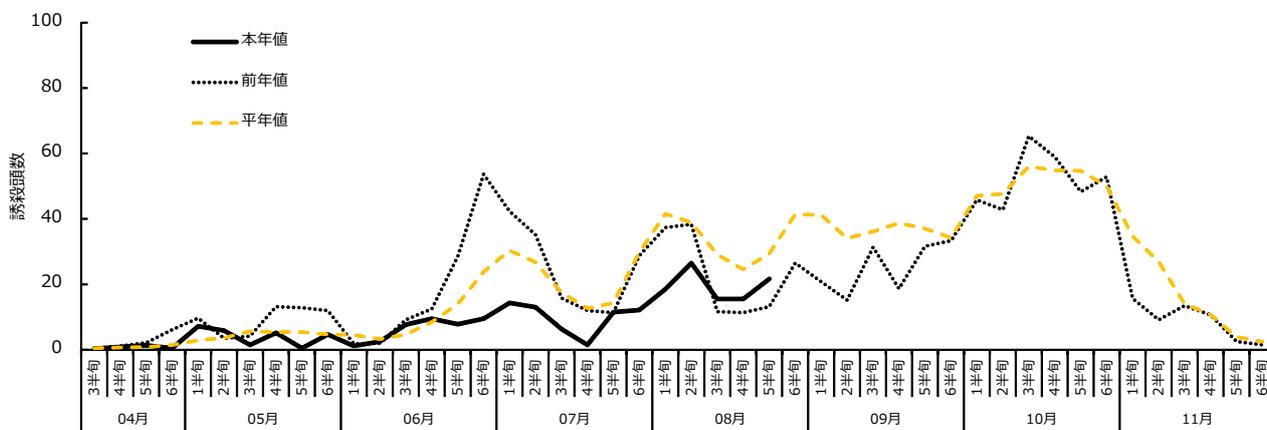


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移(野菜圃場6地点)

IV. その他

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
 URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。